

も く じ

P. 2～3	HR(Human Rights プロジェクト)
P. 4～5	SAY の会
P. 6～7	中区子育てひろば 2 周年!!
P. 8～9	「子どもの感情のコントロール」 講師 梅花女子大学 伊丹昌一さん
P. 10	エンパワメントファシリテータ研究会 案内
P. 11～13	子どもの権利条約フォーラム 2017 報告
P. 14～15	世界青年の船
P. 16～17	森田ゆりさん 講演報告
P. 18	デートDV 防止スプリングフォーラム 2018
P. 19	CAP 活動報告
裏表紙	事務局からのお知らせ



HR(Human Rights)プロジェクト

HRでは子ども対象の授業を、“エンパワメント授業”と名付けています。数年前はあまり聞き慣れなかった“エンパワメント”という言葉、今は少しずつ認知されてきていますが、子どもたちはあまり知らないようです。

授業開始前に、子どもたちにはこの授業を「みんなの力を見つける授業」と伝えています。「みんなには力があるねんで～」と言っても、「どうせ、自分なんか…」「自信なんかなんもないわ」「自分のこと大切じゃない」と思っている子どもたちがとても多いです。

言葉ではなかなか伝えにくい“エンパワメント”ですが、45分または50分の授業の中で子どもたちが本来持っている力を少しでも取り戻すために、どのように、子どもたちと向き合い、関わっていくのか、これはHRの永遠の課題です。

子どもの意見や気持ちを尊重し、反発してくる子どもにも真摯に向き合い、また沈黙している子どもにもそっと寄り添っていく。私自身は子どもとどんなふうに関わっているのかな？子どもの力をうばってないかな？と、日々、難しさを感じていますが、子どもたちと関わっていくことが大好きです！！

みんなが持っている力を肯定的に発揮し、自己肯定感を高め、自分が大切だと心から思えるように…私たちも授業の中で、子どもたちの力を感じた時は瞬時に認めていきます。

子どもたちは、「エンパワメント授業」を通して、“聴くことの大切さ”“人とつながっていくことの大切さ”“自分ってこんな力があるんだ”“ちょっと自分のこと大切にしようって思った”など、少しずつ感じているようです。

今後も、子どもたちが大切にされたと少しでも実感できるように、“エンパワメント授業”を継続的に取り組み、子どもたちの力をたくさん見つけ、エンパワメントしていきます

by ありちゃん

最初、エンパワメントという意味がわかりませんでした。でも、授業をきいていると、とても分かりました。エンパワメントというのは力です。力でも“力が強い力”ではなく、“考える力”とか、“みんなと合わせる力（協力）”とか“感じる力”とかということが、よく分かりました。そういう力を今度から見つけていきたいと思えます。そして、そういう力をいっぱい身につけたいと思いました。（小学4年）



- ・自分のことも人のことも大切にしようと思った。少数の人の意見をもっと聴こうと思った。（小学6年）
- ・自分に自信をしっかりと持つ。他人に流されない。人の話はしっかりと聴く（中学3年）
- ・周りの人のことばかり気にするのではなく、自分は自分って思える人になりたいと思った。（中学3年）
- ・自分自身をもっと大切にしようと思った。（中学1年）



教育関係	—子ども対象（クラス単位）— <堺市> はつしば学園小学校（２年生３クラス、４年生３クラス） 新金岡東小学校（５年生１クラス、６年生１クラス） <豊中市> 西丘小学校（全学年２２クラス） <箕面市> 東小学校（２年生２クラス×２回、４年生３クラス） 豊川北小学校（５年生２クラス×２回＊うち１回は２クラス合同） <柏原市> 国分小学校（４年生３クラス） <羽曳野市> 白鳥小学校（６年生２クラス） <泉南市> 西信達小学校（５年生２クラス×２回、６年生２クラス×２回） 雄信小学校（６年生１クラス×２回） 砂川小学校（５年生３クラス×２回） 鳴滝小学校（５年生１クラス×２回、６年生１クラス×２回） 西信達中学校（１年生２クラス×２回、２年生２クラス×２回、 ３年生２クラス×２回） 泉南中学校（１年生４クラス×２回、２年生５クラス×２回、 ３年生５クラス×２回） —おとなと子ども対象— 堺市立浜寺昭和小学校（６年生３クラスと保護者） —おとな対象（教職員・ＰＴＡ）— 豊中市立西丘小学校ＰＴＡ 泉南市教頭研修 泉南市指導者育成講座
医療・福祉関係	—おとな対象（一般）— グローライフ（介護職員初任者研修、移動支援従事者研修、 同行援護支援者研修 全２９回） NPO 法人 QB ヘルプセンター—じゃんぷスタッフ研修
子育て支援関係	—おとな対象（一般）— 子育てサロン「おたまじゃくし」 浜寺校区おもちゃ図書館
その他	—おとな対象（一般）— シニア自然大学校 いずみチャイルドライン養成講座



SAYの会

「女の子あつまれ～♪ステキなおとなになるためのワークショップ」というお題をいただき2017年12月末、NPO法人ぴーすとの協働事業における発達障がい児のためのワークショップを開催しました。

当団体の事業の一つであるオレンジりぼんで依頼を受けた4回連続ワークショップの1回をSAY（性・生）の会が担当しました。

思っていることをうまく伝えられない等から対人トラブルとなったり友だちとの関係を築くことが苦手など、しんどさを抱えた子どもたちと、自分のからだと気持ちを大切にし、自分と他者との距離感・境界線を学び他者とどう関わりつながるかについて一緒に考えました。

からだ、気持ち、考え方、物、時間、空間等における「境界線」それは、自分のからだは自分だけのもの・自分の気持ちは自分だけの大切なものという、自分と他者をわける感覚です。一番大事な自分を表す紫色の部分を中心に全6色で表した同心円のサークルズ（CIRCLES）の概念を使って、その距離感に応じた公的/私的の行動の区別を確認していきます。（写真参照）

小学校4年生から中学3年生までの思春期を迎えた10代の女の子たちと楽しいガールズトークを展開しながら自分の日常生活を振り返り、ペープサート（紙人形劇）を用い、着せ替えをし、それぞれの場にふさわしい服装や適切な行動を考えました。

「はだかでリビングとか外に行く？そう！お風呂や自分だけの部屋にいるときだけだね」「パジャマや下着で学校行く？～着替えるよね～出かけるときは髪の毛や服装を整えます！」「スカートの時は下着が見えたりしないよう足を広げて座りません～それは自分のからだ、プライバシーゾーンを守るため～」

そしてロールプレイを通して、「好きな人と仲良くなりたいときはどうしたらいいかな？いきなり匂いを嗅いだり抱きつく？しないよね～自分が好きだと思っても相手といきなり距離が近づくものではないよ！どうしたらいいかな」自分の気持ちを相手にどのように伝えるか、また何ができるかを一緒に考えました。

2017年度SAY（性・生）の会では、大阪府内の中・高校、支援学校、団体で53ワークショップを開催しました。それぞれの課題や予防にむけて、年齢や要望に応じたプログラムを作成し届けています。

そして境界線を学び意思決定能力を高め自分も他者も尊重し生きていくために学ぶ不可欠なことと考えます。

性に関する経験は自分の人生に大きな影響を及ぼします。子どもたちが被害者にも加害者にもならないために、一人でも多くの子どもたちにプログラムを届けたいと思っています。しかしながら学校現場では、「必要性は認識していても開催するための予算がなかなか取れない」との声が多く聞かれます。「人権の視点での性教育」を届けるために、その現状を打破し機会を増やすため、今後社会に向けてもさらに発信し働きかけをしていきたいと思っています。

A colorful circular diagram representing a person's social network, with concentric rings of different colors (red, orange, yellow, green, blue, purple) and various labels in Japanese. The center is a dark purple circle labeled '自分' (Myself) and 'わたし' (I). The inner ring includes 'お母さん' (Mother), 'お父さん' (Father), 'お兄ちゃん' (Brother), 'お姉ちゃん' (Sister), 'いとこ' (Uncle/Aunt), and '恋人' (Lover). The middle ring includes '先生' (Teacher), '友達' (Friend), 'いとこ' (Uncle/Aunt), '恋人' (Lover), 'お父さん' (Father), and 'お母さん' (Mother). The outer ring includes '先生' (Teacher), '友達' (Friend), 'いとこ' (Uncle/Aunt), '恋人' (Lover), 'お父さん' (Father), and 'お母さん' (Mother). A small drawing of a girl is on the right side.

中区子育てひろば うきうきルーム 2 周年

「保育園に通うことになったので、これまでありがとうございました。」

「引越しが決まったので、今日が最後になります。ありがとうございました」
新しいスタートを告げる言葉に、寂しさと応援と感謝の気持ちが混ざり合って、
「また来てねー」の声に力が入ってしまいます。
そんな、ドキドキわくわくいっぱいこの季節、
中区の子育てひろばうきうきルームは2周年を迎えました。

これまで毎月の講座や、月に数回設けている〇〇ディ、CAP学習会を通して、
「ひとりじゃないよ！」のメッセージをどれだけ届けてこれたでしょうか。

自分の子育て時代は、毎日開いているひろばはなく、子育て中のママが自主的に
サークルを作り、月に数回集まる程度でした。

自主的とはいっても、ひとりで行くには敷居が高く感じられ、友人が行くなら
私も…と、ちょっと頑張らないといけなような場だったように思います。
それでも、情報は欲しいし、おしゃべりもしたい、取り残されたら不安だし、
みんなはどうしてるの？など、色々なおもいを持って出かけていました。

うきうきルームには、おばあちゃん、お父さん、お母さん、おじいちゃん、など
色々な方とのペアで、ほとんどの方が1組でいらっしゃいます。
近所に小さい子がなくて、家で2人きりでいると時間がもたなくて…など、
きっかけは様々でも、うきうきルームを選んで一歩踏み出してくれたことに
「ありがとう」の気持ちになります。

引越し予定の利用者さんが、赤ちゃんの頃からのお子さんの成長を振り返りながら、
ひろばへの思いも伝えてくださいました。

- ・ひろばは、毎日の散歩コースの中に入っていました。
- ・毎月の子育て講座も楽しかったです。今まで怒りや自分自身についても考える機会がなく刺激になりました。
- ・2人目出産の予定ですが、里帰り出産をするので、その時に遊びに来れると思うと安心です。

他の利用者さん方からも...

- おとなが大勢いる場に行っても、普段と同じようになじめています。ひろばに通ってたくさんの人に関わってもらえたおかげです。
- 友だちがほしくて来ました。会社や学生時代とはちがうママとしての話ができて良かったです。
- 私って頑張ってるんだと気付きました。もう少し力を抜いていいんですね。
- ネットの情報にしんどくなり、本当はどうなのかを聴けてホッとしました。
- 家で子どもと2人でいると、どうやって遊べば良いかわからなかったです。ひろばの 空間にいただけで、刺激になってるんですね。

みなさんそれぞれの目的やペースに合わせて利用されています。

利用者さんとスタッフの関係だけでなく、利用者さん同士で困りごとや不安を話し合われて交流されている姿、子どもたちが遊んでいる様子をゆっくり眺められている姿などを目にした時、利用者さんの力と可能性を感じる嬉しい瞬間のひとつです。

また、一緒に立ち止まって考えたり話すことで、新しい気づきがあり、私たちも成長させてもらっています。

次の3周年に向けて、引き続き、いごこちのよいひろばとなるよう利用者さんとスタッフと共につくっていきたいと思っています。

「おとなも子どももひとりじゃないよ」
今日ひろばで出会えることを楽しみにしています。

(さこちゃん)



子どもの感情のコントロール

講師：伊丹 昌一さん（梅花女子大学 心理こども学部 心理学科 教授）

大学のセンター受験で配慮（大きいサイズの手紙、マークシートをチェック式に変更する、トイレの近い場所にするなど含む）を希望する人が70名程いて、その配慮を必要とする人たちは、少し工夫するだけで困りごとが解消され受験ができる、障がいとは、「生きるのに困る事がある状態」であり、困る状態が無ければ、障がいは無くなる。という話から、地域社会で「あたりまえ」に、みんなが障がいについて理解して、少しの工夫や配慮ができる人が増えていけたらよいと思った。

「アンガーマネジメント」怒りと上手につきあうこと。

①「6秒ルール」（好きなものを順番に言うとかでもOK）

②「べき」を減らす。

レジに並んで小銭をたくさん出して時間がかかる前の人に向かって自分がイライラして発する言葉を子どもが学ぶということ、、、支援者として良いモデルになるって難しい(´_`)
特性のある子はやはり怒る事がある。怒って良くない行動したあと支援者は話を聴き、次に何が出来るか、一緒に考える。私は殴り合いが始まったり物を壊してしまったり、自傷行動が始まったりするとびっくりするしドキドキして冷静でいるのは難しい。
冷静に子どもの話を聴けているのか、、、まずは自分に振り返り「べき」を取り払い、「ま、いっか」を言えるようにしたいです。

今回は、参加者同士で話をする時間をもち、そのあとに質問の時間を設定しました。
地域や学校、家庭で障がいのある方に関わり一生懸命に取り組み、どうしたら、（当事者にとっての）障がいが無くなり過ごしやすいのか（生きやすくなるのか）知識や情報を得たい！と熱心な方が多くいることを嬉しく思い、自分もできる事をがんばりたいと思いました。

（たえぼん）

〈参加者感想〉

○怒りのコントロールを関わっている子どもたちに伝えるのは、とてもハードルが高いと少しあきらめていましたが今日のお話をきいてがんばってみようと思えました。（５０代）

○役割交代…むずかしいです。子離れしないと…です。（４０代）

○子どもを許すことや上手な怒り方は凄く参考になりました。支援する子や我が子に対しても、もう少し力を抜いて関わるようにしたいなと思いました（３０代）

○支援するこちら側が変わらなければ。という事を再認識しました。子供を信じて自分の目線を子供主体に変えていけたら良いなと思いました（３０代）

○グループワークをした他の３人が特性を持つ子の親の立場で子どものための情報を知りたくて来たけれどまずは自分の感情を上手なコントロールが必要と感じたと口を揃えて話されたのが印象的 感情について詳しく知らせる講座も必要なんですね（６０代）

○怒りのマイナス面ばかりにとらえず 前向きに考えていくことが大切だと思いました。受け取り伝えていく難しさも感じています（４０代）

○支援方法を知って考え方がガラッと変わりました（２０代）

○具体的な対応方法をお聞きで来てよかったです（５０代）

2018年3月4日 堺市産業振興センターにて開催



＊ローズカーニバル＊

今年も、5月20日（日）に浜寺公園で開催される

ローカーニバル参加します。

フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、子どもたちへワークショップを届けます。

フリーマーケットに出品する品物を提供してくださる方はE S事務所までご連絡ください。



2018年度も開催します！！

エンパワメント・ファシリテーター研究会

今、子どもとのかかわりで必要な3つの“ちから”とは？

2017年度全9回のエンパワメント・ファシリテーター研究会を開催しました。研究会に参加し、ともにワークショップで学んだ人がそれぞれの所属する団体でエンパワメントの関わりを活かしたり、その後えんぱわめんと堺/ESの活動に入って子どもたちに関わっている人もいます。

今年度も下記のとおり実施します！！

子どもが本来ある自らの力をとり戻すエンパワメントのかかわりでファシリテートしていく研究を始めませんか？はじめての人でも、大歓迎です！

時間：全13時30分～16時30分 各回定員30名

参加費：一回につき、一般：3000円（学生：2000円）賛助会員：2000円 正会員：1000円
内、3回以上の参加と実践1回で、さまざまな現場でいろんな子どもと実際に関わっていただきます。今年度の予定は下記のとおり

- ・4月30日(月) サンスクエア堺 ファシリテーターのために《子どもの暴力》
- ・5月31日(木) 堺市総合福祉会館 ファシリテーターから 《多様な子ども》
- ・6月30日(土) 堺市総合福祉会館 ファシリテーターによる 《子どもの価値観》
- ・9月30日(日)
- ・10月31日(水)
- ・11月30日(金)
- ・1月31日(木)
- ・2月28日(木)
- ・3月31日(日)

9月から3月の会場は未定です。
追ってお知らせしますので、ホームページをご覧ください、事務局にお問い合わせください。



子どもの権利条約フォーラム 2017 報告

NPO 法人えんばわめんと堺は、子どもの権利条約フォーラム 2017 の子ども会議メンバーとして、子どもの権利条約についてワークショップを勧めてきた。

2015 年から子どもの権利条約フォーラムの構成グループとして参加し、2016 年度【全国子どもの権利条約フォーラム in 関西 2016】では、子ども会議チームとして参加した。

その【全国子どもの権利条約フォーラム in 関西 2016】のテーマは、知る→変わる→動こうや！子どもが変えるおとなが変わる仕組みは変わるだった。

全国フォーラムの当日、私が目にした子どもたちは、権利を知って変わりおとな（社会）に向かって動き出していた。子どもたちの企画で「おとなに言いたい」は、それぞれの子どもが自分の伝えるスタイル（劇・俳句・メガホン・幟旗・・・）で発せられた。その一つひとつのメッセージは、私たちおとなに突き付けられた。（私はそう感じた）そして、もっと聴いてという子どもたちのメッセージを知って、私たちおとなは本当に動いているのか？という疑問がわいた。

子ども会議チームがこの年、初めに話し合ったのは、会議におとなが子どもを連れてくる、そしてその子どもたちを待つばかりではなく、子どもたちがいる場所に出向いて子どもの声を聴きに行くことを、まずは動こうや！だった。

子ども会議チームでは、子どもの声を、直接聴く場を大事にしたいという思いで、出前子ども会議でワークショップを展開した。もっと多くの子どもたちが子ども権利条約を知り、学び、子どもの参加が実現される場を探し、大阪市内、大阪府内では八尾市や堺市の放課後デイや地域の集まり、子どもの居場所になっている場所での出前子ども会議を実施した。



アイスブレイク！じゃんけん列車でみんなと話せた。

子ども会議の位置づけ

“子どもたちの権利学習の場” “子ども参加の実現の場” “子どもとおとなの協働の場” として、子どものいる場所へ出前子ども会議を計画し動き出した。子ども権利条約を説明し、「子どもたちは、どの子も生きる・育つ・守られる・そして参加する権利がある」ことを伝え、子どものどんなつぶやきも表情も尊重される、それぞれの参加の仕方が保障される場を促進した。2017 年のテーマの中にある「動こうや！」でともに子どもの中に入って動き出した。

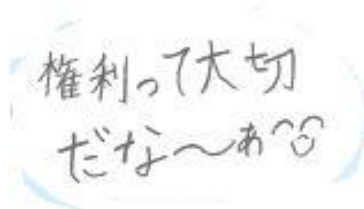
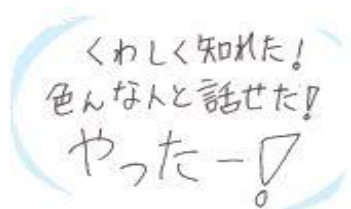
子どもの権利条約は、守られてるの？

子どもの権利条約を知り、子どもたちには、学校や地域、家庭の生活の中を振り返りながら「子どもの権利条約は守られているのか？」の問いに、アタック！と気持ちをぶつけるワークショップをした。水分を含んだティッシュに色をつけてぶつけた後、太いストローにぎゅうぎゅうに詰め込み、権利のスティックを作った。（これは、フォーラム当日、“けんり”の文字となって表した。

それぞれの子どもが生活の中で権利がなくなったり、とられたと感じた時の気持ちを「怒りの火山」のワークシートに色付けし文字を入れたりした。

自分の権利が守られていないことを突きつけられた子どもの中には、今までこんなものと諦めていた事が悲しみとなって表出し、怒りになり、抑えていた感情が湧き出しその扱いに苦しむ姿も見ることになった。

それに寄り添うことは、私たちおとなの責任ではあるが、その子どもを取り巻く環境全体が瞬時に変わる訳ではないので、大きな矛盾を抱え込むことになる。時に、子どもの権利を教えない方が本人にとっては良かったのか？という議論になることがあるが、そうではない。子どもの権利が守られるように、周りのおとなや社会に働きかけ、少しずつでも環境が変わるように寄り添うおとなが動く姿を子ども達は見ている。その後エンパワメントの関わりで子ども自身も声を上げられるようになり、状況が変わったケースもあった。



2017年の関西子ども権利条約フォーラムは、午前に3つの分科会そして午後から全体会で開催した。

午前の分科会では子ども支援にかかわり子どもにやさしいまちづくりのための戦略、子どもの権利を大事にした教育の場、そして子どもの権利ワークショップとどの分科会も子どもの権利を中心に進められた。

午後からは、子どもたちが自ら作り上げたものの発表だった。子どもたちは、リハーサルや練習時は、声がでなかったり、何を言ったらいいん？って立ちすくむ姿もあったが、本番には、いつものようにおとなたちを驚かせるくらい、力を発揮した。

子どもからおとなへのインタビュー

フォーラムが終盤にかかった時、「子どもの時に、言われて嫌だったことは何ですか？」「では、今おとなになって、その言葉を子どもに言ってますか？」の問いで、多くのおとなの動画が会場いっぱいに表示された。子どもたちが作ったフレームで、多くのおとなが問われ、子ども時代と今を振り返った。

子どもたちの作り上げたその動画集で、再びおとな自身の子どもに対する在り方を問う形で終わった。

今年度もえんばわめんと堺は子どもの権利条約を伝える活動を続けていきます！

(文責 same・はしもと)





今回、平成28年度内閣府青少年事業の中の次世代グローバルリーダー事業、「世界青年の船」に参加させて頂きました。本年1月に東京のオリンピックセンターで1週間の研修を経て、2月に約1ヶ月間の船上研修を体験しました。

世界中の様々な大陸から集まったユースリーダーの出身国は、インド、オーストラリア、オマーン、スペイン、スリランカ、ペルー、南アフリカ共和国、ポーランド、メキシコ、モザンビーク、そして日本でした。11カ国から集まった多様なバックグラウンドをもつ同世代の青年と、海の上の船上生活という非日常の共同生活が始まりました。

私が所属するディスカッションチームは子どもの権利、「Children's Rights」でした。コースのメンバーが一同に会した時、11カ国から集まったメンバーが子どもの時にどのようなことを考えていたか、そしておとなになった今何をしたいのかをできるだけ子どもの視点に立って話し合い、ディスカッションを発展させたいと思いました。私がディスカッションから学んだことは、「全ての子どもの権利が保障されるために、私はおとなの一人として、何か一つでも行動する責任がある」ということです。

仲間の発表から、社会問題の視点や、言語や文化や宗教の視点から各国の子どもたちの状況を話し合いました。

母語での教育がなく、学校へ行っても理解が難しい状況にいる子ども。

子どもの頃から、家族のために出稼ぎにいくという選択が当たり前にある子ども。

麻薬戦争などの社会問題から安全に生活する権利を侵害される子ども。

これらの多様な問題から、社会の構造的な暴力のために、子どもが犠牲にならない仕組みが必要だと再認識しました。

この船で、私は11カ国の仲間と多様な課題に多様な視点で、子どもの権利の保障について向き合うことができました。最終回には、課題解決として、教育機関、地域、個人、企業、政府、NGO、そして子どもへ、アプローチの可能性をチームで話し合いました。たとえ、短期間ですぐに解決できる課題ではなくても、必ず草の根で何かできることがあると私たちは考えました。

私は、「NPO 法人えんばわめんと堺」の活動会員として、日本と世界の子どもが権利を保障されるために、まず自分に何ができるかを考えたいと思います。また、子どもの家族がどんな状況でも、子どもがどこに住んでいても、無条件で世界中の子ども達が権利をもっていることを子ども自身が知ることができる機会をつくることを促進したいです。

最後に、えんばわめんと堺の活動メンバーに、今回の私の事業への参加の志望を応援して頂き、実現することができました。私は世界青年の船の事業を通して、11カ国に「子ども一人ひとりを尊重し、エンパワーできるおとなでありたい」と考える仲間をもつことができたことを誇りに思います。



子どもの生きる力と遊ぶには？

講師：森田 ゆりさん（エンパワメントセンター主宰）

主催：にしなりプレーパークプロジェクト

森田ゆりさんはCAPの第一人者で、日本でCAPを拡げること貢献された人ときいている。

私は、森田さんの講演は初めて、今回のチャンスは是非とも行きたい！と思った。

1月下旬の寒い月曜日、19時からの講演だというのに、西成区役所の会議室は満員。

プレーパークが開かれるにあたり、地域の方の関心の高さが伝わってくる。

●生きる力って何？

人が心から自分の存在を大切に思えること。もしおとなとして子どもに生きる力を持って欲しいと思うなら、あなたの出来る事は目の前の子どもを大切に扱うこと、全力で向き合う、全力で尊重すること、子どもが本来持っている力を信じること。

人権とは、人が生まれながらに持つ生きるためのまろいから。

人権を手話で表すと、胸の前で指で「人」と書いて、曲げた腕の力こぶを指さすそうです。

まさに、「ひとのちから」。(私はこの話を早速、ひろばでの学習会で紹介しました！)

●生きる力としての人権とは？

人権を心のレベルで考えると、「安心」「自信」「自由」、生きるために不可欠な力。

CAPの基本概念である、私たちが大切にしていること。

もし、生きる力を潰されそうになっている子どもと出会ったら、私たちに出来る事は、

- ・心の応急手当：聴くこと。(隣に座る人と共感的傾聴のアクティビティをしました)

「どんな気持ちも、あなたの大切な気持ち」、あなたの話はとても大切、一生懸命聴きますの姿勢で聴くこと。そうすれば、子どもは感情を認められたと、心身の回復を大きく促進する。

- ・体罰は決してしない、させないと広く伝える

躰という名目で行われる体罰がエスカレートしていく虐待。

「体罰は時には必要」から「体罰が必要な時はない」への意識が浸透することが不可欠である。

スウェーデンでは、「子どもたちは、看護、安全。そして良い養育に対する権利を有している。子どもたちは一人格として、また一個人として尊重に基づき扱われ、体罰や他のどんな屈辱的な扱いも受けてはならない」という法律で体罰禁止の法律が制定された(1979年)。

この取り組みにより、2000年代には体罰をしたことがあるという親は10%に減少した。

また、これに伴い非行、DVなども減少した。

体罰の6つの問題

- 1.大人の感情のはけ口であることが多い。
- 2.痛みと恐怖感で子の言動をコントロールする。
- 3.他のしつけの方法を考えなくなる。
- 4.エスカレートする。
- 5.体罰を見た他の子どもにも心理的ダメージを与える。
- 6.取り返しのつかない事故を引き起こすことがある。　（『しつけと体罰』森田ゆり著より）

●あなたは子ども像派？それとも子ども観派？

子ども像派は、おとなが理想とするもの、望んでいるもの、その像と子どもを比較してしまう。それは虐待と同じくらいひどいこと。

子ども観派は、おとなの期待する像に当てはめて判断するのではなく、その子なりの個性、特性、こだわり、ニーズをしっかりと観察し、注目して、その多様性を受け入れること。

発達途上である子どもは、身体も心も思考も日々変化している。子どもの変化に興味を持ち、観察しながら、その都度対応していく子育て。

●生きる力のしつけ

しつけの目的とは自立と自律、しつけとは自分で社会生活を送れるように、その子なりに自ら立ち、自らを律していくように大まかにガイドすること。

大まかなガイド⇒三つの要素　子どもをまるごと肯定する：安心

子どもの自分への自信を育てる：自信

子どもが自分で選べるように援助する：自由

この順番で必要

自立とは一人で立つことではなく、人の力を借りて立つこと、ヘルプを求める力、すなわちコミュニケーション能力が必要。

えんばわめんと堺/ESの大きな柱でもあるCAP。

大切に大切に届けたいと、メンバーで日々研鑽を重ねるワークショップです。

CAPのワークショップに行けば行くほど、奥が深いと感じています。

CAP以外のワークショップでも、根っこ部分はCAPの理念に基づいていると感じます。

スペシャリストになりたての頃だとこんな風には感じなかったかもなあ。

これからの活動をしていく中で、さらに「安心」「自信」「自由」を自分の中で基本にして、子どもたちに寄り添いたいです。

（しおざき）



デートDVは社会の問題です。デートDVを社会を変えるキーワードにする

「デートDV防止スプリング・フォーラム2018」

3月18日：東京日本財団ビルにて開催された全国フォーラムへ参加してきました

「デートDV」という言葉は、デートDV防止講座の第一人者でもあるアウェア代表の山口のり子さんが2003年に出版された書籍で使われたのが初めてだったそうです。英語圏ではデートレイプやパートナーバイオレンスという言葉が使われていましたが、日本でその言葉を使うと自分にレイプやバイオレンスが起こっていないければ、自分たちとは関係のないことと思う人がいる、レイプという言葉から無理やり暴力的に性行為をされた場合のみ。というようなイメージが先行すると考え、身体的な暴力だけでなく精神的な暴力で相手にNOを言えない、束縛が強く相手に従順であることを求められ支配関係になる、もちろん同意のない性行為、避妊に協力しないなど、様々な暴力が交際相手だから許される。というような考えで自分自身の自由で豊かな人生を侵害されることを「デートDV」という言葉を作ること、問題定義されました。

私たち子どもの人権に関わる活動をしている仲間には、きっと知らない人がいない「デートDV」という言葉も2015年の内閣府のデータによると言葉だけ知っている認知度は全世代で63%、内容まで知っているのは30%という低い数字になっています。もちろん若い世代の方が認知度は高いです。

昨年度設立され、当団体も参加しているデートDV全国ネットワークからは、デートDV防止活動の全国の状況を初調査した結果も伝えられました。まだまだ参加している団体・機関は100ほどで、実際には倍くらいの団体が予防啓発活動をしていると考えられますが、年令別や都道府県別の受講人数も明らかになり、一つの団体・地域だけで取り組むのではなく、ネットワークとして連携し、プログラムや、行政との連携、課題などを共有することで、さらに多くの子ども達にプログラムを受講してもらう機会を増やせることも実感しました。

例えば・・・日曜日に友だちとカラオケに行こうと駅で待ち合わせをしていたら、突然彼がやってきて「今日休みが取れたので映画に行こう、チケット取ってきた！」と車で迎えに来た。待ち合わせていた友だちに悪いのでやんわり断ると、彼が不機嫌になり顔色が変わった。友だちは「せっかく彼が来たのだから、私は今度でいいよ」と言い、「ごめんね～こいつはオレと出かけるから又ね」と彼女の手を引いて車に連れ込んだ。 「休みを取ってわざわざ迎えに来たのに、喜ばないお前はということだ！」という彼に、うなずいて「ごめんね」というしかない彼女。 この彼女へどんな言葉をかけますか？

デートDVは、DVや虐待、予期せぬ妊娠など様々な社会課題と繋がって起きていて、社会で向き合うべき問題です。

その対等でない人間関係が起きる背景には、力による支配を許す考え方、暴力を容認する意識、性による差別、性別役割によって生じる格差などがあり、社会を作っている私たちおとなの問題でもあります。

当団体の5月の総会では、デートDVをテーマに総会后イベントを開催します。

デートDV防止全国ネットワークの仲間の関西大学 多賀太さんもお招きし、学生さんとの取り組みや、ホワイトリボンキャンペーンでの取り組みなどお話しいただきたいと思います。デートDVを社会を変えるキーワードにする、一人ひとりが安心して自由に豊かに生きることのできる社会を考えていきたいです。

是非ご参加ください。

<http://notalone-ddv.org/#mainvisual>

(はしもと)



堺 CAP プロジェクト活動報告

2017年9月～2018年3月まで

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
9月	23	63	1950	0	0	0	0	0	0	24 (23)	110 (96)
10月	20	49	1467	0	0	0	0	0	0	21 (20)	79 (69)
11月	15	32	953	0	0	0	0	0	0	16 (15)	61 (47)
12月	11	31	921	1	1	25	0	0	0	13 (12)	58 (44)
1月	4	13	425	1	1	26	0	0	0	6 (5)	34 (19)
2月	1	4	100	2	2	54	0	0	0	4 (3)	26 (9)
3月	0	0	0	0	0	0	1	3	108	2 (1)	14 (10)
合計	74	192	5816	4	4	105	1	3	108	86 (79)	372 (284)

☆CAP スペシャルニーズプログラム子どもワークショップ 支援学校1校1ワーク 17人



お知らせ



第16回 ES総会&イベント ご案内

☆日時： 2018年5月12日(土)

・総会—13:15～ ・イベント—14:30～16:30

☆場所： 堺市総合福祉会館 会議室

☆イベント内容：**大学生の視点で作成したデートDV防止プログラム
を見て、参加者と共に考えます。**

一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン
多賀太さん(関西大学 教授)

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000 円

(初年度のみ入会金 3,000 円)

賛助会員 1,000 円(入会金なし)

◎ 更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと

口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

正会員 27 名

賛助会員 128 名(140 口)

寄付金 7 名 36,060 円

堺市市民活動支援金 30,000 円

2018年 3月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
ご支援にささえられております。今
後ともよろしくお願いいたします。



編集後記

ESの樹の発行に携わらせて頂くのは今回で2回目です。

今回編集メンバーの一員である私は1ヶ月間、「世界青年の船」に参加させて頂いていました。

そのためESの樹31号の編集には、間接的にしか関わっていない中、広報チームと原稿メンバーとの丁寧なやりとりを通して、無事に編集を終えることができました。

今年度、私は花粉症を恐れず、ウイルスを恐れず、

暖かい空気を肺やお腹の隅々まで取り入れようと思います！ (あいのっち)